



THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY

ポピュリズムとリーダーシップ

— 『集団心理学と自我分析』

『モーセという男と一神教』を手がかりに

はじめに

1. 「ポピュリズム」の内実
2. デモクラシーのもとでのリーダーシップ
3. 「集団」とリーダー
4. 「カリスマ」の脆弱さ
5. ポピュリズムのもとでのリーダーとは？

まとめ

関西大学
木村 祐治

はじめに(1)ー問題意識と準備作業

問題意識

「ポピュリズム」と呼ばれる状況のもとでのリーダーシップ、ならびにリーダーという存在はどのような性質を持つものなのか？

準備作業

- そもそも「ポピュリズム」とは？
「国民に訴えるレトリックを駆使して変革を追い求めるカリスマ的な政治スタイル」
→デモクラシーのもとでは不可避 (吉田徹)
- デモクラシーのもとでのリーダーシップとは？

1



はじめに(2)ーアプローチの視角

- 吉田徹 『ポピュリズムを考える』
「ポピュリズム」が生起する条件とは？
- フロイト 『集団心理学と自我分析』
「原父」= 集団理想・自我理想
- フロイト 『モーセという男と一神教』
「偉大なる男」
- ヴェーバー 「権力と支配」 『経済と社会』
「カリスマ」

「原父」「偉大なる男」カリスマ≠ポピュリスト
→「カリスマ」の脆弱さ

2



- Aaron Wildavsky, *Moses as Political Leader*
「体制の機能としてのリーダーシップ」
→「ポピュリズム」をひとつの「体制」として捉えると？

*初版タイトル: *The Nursing Father* (1984)

民数記:11:10-13

「(略) 主が激しく憤られたので、モーセは苦しんだ。モーセは主に言った。「あなたは、なぜ、僕を苦しめられるのですか。なぜわたしはあなたの恵みを得ることなく、この民すべてを重荷として負わされねばならないのですか。わたしがこの民すべてをはらみ、わたしが彼らを生んだのでしょうか。あなたはわたしに、乳母が乳飲み子を抱くように彼らを胸に抱き、あなたが先祖に誓われた土地に連れて行けと言われます。この民すべてに食べさせる肉をどこで見つけばよいのでしょうか。(略)」」

3



1. 「ポピュリズム」の内実

吉田徹『ポピュリズムを考える』

「私たちが生きている今の民主政治では、ポピュリズムは避けることができないのだ。それは民主主義に内在する固有の現象ですらあるかもしれないのだ。」

(p.9)

「民主主義という政治制度の基盤が「人民主権」にあるのだとすれば、ポピュリズムが生じ、ポピュリストが出てくるのは当然ということにはならないだろうか。というのも、人民から支持を得て、人民の意思を体現しようとするのは、民主政治では、政治家のむしろ義務であるからだ。」 (p.11)

なぜ「ポピュリズム」が生じるのか？

「現代において、政治は多かれ少なかれ、ポピュリズム的たらざるを得ない。それは歴史や伝統によって支えられていた社会のなかで人々の結びつきが崩壊し、もはや生産関係からなる社会関係に忠誠心を持たない人々の支持を集めるためには、不可欠の政治スタイルであるからだ。」 (p.27)

「冷戦構造が崩壊してグローバル化の時代を迎えると、どのような政治勢力であれ、統一され首尾一貫した世界観や価値体系に依拠することはできなくなった。政治は、利益とイデオロギーという両輪を失ってしまったのである。だからこそ、どの国でも無党派化と脱政治化が進む。

この政治状況の変化は、共同体をアナーキーで平等主義的なものとし、そこには市民の自己決定とリーダーのアカウンタビリティから成り立つ民主主義の原則だけが残ることになる。そのなかで、政治リーダーは分配できる財も提供できるイデオロギーもないままに「人々」の意思を完全な形で代表しなければならない。これこそ、現代政治においてポピュリズム的なリーダーシップが出現しやすい条件となっているのだ。」 (p.158)

2. デモクラシーのもとでのリーダーシップ

「代表制民主主義のもとにおける選挙民を頭から「ノンリーダー」と規定してよいかどうか問題である。ダールらが「エリート主義」的傾向があると批判されたことも、これと関係している。直接民主主義原理は、大規模社会での適用可能性に問題があるとしても、かれらも、民主主義の存続条件の1つとして、集団構成員の政治的知識や所得が比較的均等であることなどをあげている。これは民主制におけるリーダーシップの基礎条件というべきものである。そして、選挙民がある面において「リーダー」であることを認めないかぎり、代表制民主主義におけるリーダーシップを正しく理解することはできないのではあるまいか。簡単にいえば、民主主義とは、原理的には集団構成員のすべてがリーダーであるようなリーダーシップ・システムのことなのである。」

(山川雄巳『政策とリーダーシップ』、p.92.)

リーダーとノンリーダーの（ある種の）平等性

ポピュリスト（リーダー）に従属する民衆（ノンリーダー）という図式は正当か？

偉大なるカリスマ > 民衆？

3. 「集団」とリーダー

フロイト「集団心理学と自我分析」

「集団の欲求が指導者の方に歩み寄るのだとしても、指導者の側でも、その人格的特性によって集団の欲求に対応しなければならない。集団の内に信仰を惹起するためには、指導者自身も（ある理念への）強い信仰によって呪縛されていなければならない。指導者は、畏敬の念を起させるような強い意志をそなえていなければならない、意思を欠いた手段はそれを彼から受け取ることになる。」（『フロイト全集 17』、p.144）

「原父は集団理想であり、自我理想に取って代わって自我を支配している。」（同、p.203）

「リーダーシップという言葉は、ポピュリズムと同じように、それ単体では成立しないという特徴を持つことがわかる。むしろ、リーダーシップの本質を規定するのは、「リーダー」と対となる「フォロワー（追従者）」の存在である。」（吉田、p.177）



リーダーシップの基盤は盤石か？脆弱か？
「原父」でありつつ、集団の欲求に応える必要

ノンリーダー集団のありかた



リーダーシップを規定

「カリスマ的」とされるポピュリストの基盤
→盤石ではない!!

4. 「カリスマ」の脆弱さ

マックス・ウェーバー『権力と支配』

「正当的支配には三つの純粹型がある。（略）

③カリスマ的な性格をもつ。つまり、ある人物およびかれによって啓示されるか制定された秩序のもつ、神聖さとか超人的な力とかあるいは模範的資質への非日常的な帰依にもとづく（カリスマ的支配）。

（略）カリスマ的支配のばあいには、カリスマ的に資格ある指導者そのものにたいし服従がなされるのであるが、それは、啓示や英雄的行為または模範的資質にたいする人格的信頼によるのであり、また、指導者のこうしたカリスマへの信仰がおこなわれる範囲内においてである。」（30-31頁）

12



「非日常的なものとみなされた、ある人物の資質を、
「カリスマ」とよぶことにしておく（略）。このような資質をもつために、その人物は、ほかのなんびとにも近づきがたいような、超自然的または超人間的な、あるいはすくなくとも、とくに非日常的な力とか特性をもった者とみなされるか、それとも神からつかわされた者とか模範とすべき者と考えられ、またそれゆえに、「指導者」として評価されるのである。倫理的・審美的またはその他の見地からみて、その当の資質が「客観的」にいかにか正しく評価されるべきであろうかは、もとよりそのばあい、概念的にはまったくどうでもよいことである。肝心なのは、それが、カリスマの支配下にある人びと、つまり「信奉者」によって、じっさいにどのように評価されるか、という点だけである。」（pp.83-84）

13



(1)カリスマの妥当性を決定するものは、被支配者による自由な承認であるが、これは、証によって一はじめはいつも奇跡によって一確保され、啓示への帰依、英雄崇拜、指導者への信頼から生まれてくる。しかしながら

（真正カリスマのばあいには）、これは、正当性の根拠ではなく、天職の自覚と証とによってこのような資質を承認されるにいたった者の責務なのである。心理的にみると、この承認は、法悦あるいは苦悩や希望から生まれた、敬虔で全人格的な献身である。」（pp.84-85）

14



(2)もしも、証が長らくのあいだあらわれず、カリスマ的天分に恵まれた者がかれの神とか呪術的または超人的な力にみはなされたことがあきらかとなるならば、また、もしも、かれが長らくのあいだ思うような成功をおさめず、なによりもかれの指導が被支配者に幸福をもたらさないならば、かれのカリスマ的権威は失墜することになるかもしれない。これが、「神の恩寵」のもつ真正のカリスマ的意味なのである。（pp.84-85）

15



カリスマ的支配が正当であるのは、人格的カリスマが証の力により「妥当」し、つまり承認をうけ、腹心の人びと、信者、従者に「役立つ」かぎりにおいて、またそのあいだにかぎってであるにすぎない。人格的カリスマ〔の威力〕が証明されているあいだだけである。」
(p.89)

カリスマ（的リーダー）はノンリーダーの支持によって成り立つ

フロイト「モーセという男と一神教」

「未開の諸民族は、彼らの神々が彼らに勝利と幸運と安楽を提供する義務を果たさなかった場合、彼らの神々を排除するのを慣習としていた。それどころか、神々を処刑することを慣習としていた。王たちは、いつの世にあっても、神々と同じように取り扱われてきた。この太古における王たちと神々の同一性は、両者が共通の根から生じてきた事実を明瞭に示している。近代の諸民族もまた、国土や財産の喪失を伴う敗北によって王の統治の光輝がかげりを帯びてくると、この王を追放してしまうのを通例としている。」（『フロイト全集22』 pp.141-142）

5.ポピュリズムのもとでのリーダーとは？

1)ウィルダフスキーのモーセ五書解釈

＊「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」
「申命記」

共同体の構成員が平等でなければならないとする規範が強固であればあるほど強力なリーダーシップが求められる

「ウィルダフスキーは、モーセのリーダーシップの本質は、人々の信仰心に依存し、彼らを盲目的に導くものではなかったという。神託だけで、荒野を数十年もの間、数十万人もの民を引き連れまわすことなどできない。モーセのリーダーシップは、むしろ、集団の結束が重視され、共有された理念を持つヘブライ人を導くという、その「機能」にあったとする。奴隷の地位にあったヘブライ人たちの集団の内部では格差は生まれようがない。したがって、集団で何かを決定しようとする場合、その決定は構成員全員によって了承されなければならない。共同体にかかわる決定を下すための代表機能や制度を無辜の民は持てなかった。なぜなら、構成員間の平等の原則が徹底しているなかで代表を決めることは、内部で軋轢を生み、共同体をバラバラにしてしまうからだ。（略）」

「そこで、この有機体的な共同体が編み出したのが、民の意思を完全な形で体現するモーセという存在の導きに従うというシステムだったのである。こうしてモーセは、「アナーキー」な状態かつ「平等主義的」な状態に陥らせることなく、「秩序ある」共同体へと昇華させることに成功したというのがウィルダフスキーの「出エジプト記」解釈である。」（吉田、pp.156-157）

社会科学

リーダーシップを「原因」（「理由」「動機」）
=causeとして把握



- 日常的な活動など、狭い範囲の政治においては……
ダールの権力の定義、ルークスの一次元的権力
- 広い範囲の政治においては……
体制=社会関係、価値、信条の変容

(Wildavsky, p.216)

「原因」としてのリーダーシップ

「状況」を広く定義

→「体制」の問題が見落とされたり、粗雑に扱われたりする



「状況」によって体制における権力関係もある特定のできごとのパターンも一緒にたに論じることで、それぞれの意味の重要性が失われることに

(Wildavsky, p.216)

体制の機能としてのリーダーシップ

リーダーシップのスタイル

「体制」が要求するもの

→「体制」によって異なるスタイルを持つことに

				権力の源泉	外なる神々	内なる神	
				支持要求	小	大	
権力の配分と権力者	平等	支配者	大	奴隷制(slavery)		ヒエラルキー(hierarchy)	
				神としての支配者 啓示:支配者にのみ与えられる ナルシズム:自己愛としての偶像崇拜 暴君的リーダー(despotic):無限/連続 支持-要求:不均衡		神のもとにある支配者 啓示:支配者を通じて人々へ 一神教(monotheism) 独裁的リーダー autocratic):限定/連続 支持-要求:均衡	リーダーシップ
権力の配分と権力者	平等	人々	小	アナキー(anarchy)		公平制(equity)	
				支配者なし 啓示:与えられない or 全員平等に与えられる 無神論(atheism) or 多神教(polytheism) :それぞれの目的に応じた神々 流動的(meteoric)リーダー:限定/不連続 要求-支持:不均衡		啓示:それぞれの集団の個人へ 単神教(henotheism) [複数の神から一つを選ぶ] :一人一神 カリスマ的リーダー:無限・不連続 要求-支持:均衡	アンチ・リーダー

(Wildavsky, p.218, pp.221-222, p.225をもとに作成)

「ポピュリズム」はどこに位置づけられるか？

公平制とアナキーの中間形態

ポピュリスト…カリスマ性を持ちつつも、

基盤は流動的

→支持率の急激なアップダウン

2) モーセのリーダーシップの特質とは？

フロイト「モーセという男と一神教」

「重要なのは、この異色の研究でフロイトは、ユダヤ民族の「超自我」（自我を律するもの）の機能をモーセに見出したことにある。」（吉田、p.157）



「偉大なる男」

「偉大なる男とは二つの仕方で、すなわちその人格と確信する理念とによって彼の周囲の人びとに影響力を発揮する、ということにしておきたい。この理念は、大衆集団の古くからの欲望形象を強化するものかもしれないし、あるいは大衆集団に対して新たなる欲望目標を示すものかもしれないし、あるいはまた別の仕方で大衆集団を呪縛するものであるかもしれない。時には—そしてこれこそたしかに根源的な事態なのだが—人格の力のみが影響を及ぼし、理念の果たす役割はごく小さい場合もある。」フロイト「モーセという男と一神教」『フロイト全集17』（pp.137-138）

3)ポピュリズムにおけるリーダーの役割=機能とは？

リーダーの必要性

「ポピュリズム現象は、必ず特定のリーダーを戴く政治運動であるという特徴を持ってきた。なぜリーダーが必要なのか。（略）民意はポピュリストたる政治リーダーがいなければ、具体的な形をともなって表れないからである。」（吉田、pp.152-153）

28

リーダーの機能

「ポピュリズムは、「代表」概念を棄却する。（略）
「民意」は「代表」されるなかで、統治者と被統治者の間に、様々な不純物を抱えることになるためだ。ポピュリズムはそれゆえ、「民意」を十全に体現する「化身」たるリーダーを必要とする。このリーダーはこの「民意」を「代表」するのではなく、「表現」する主体となるのである。「ポピュリスト」と呼ばれた多くの政治家が、「庶民感覚」や「素人っぽさ」を売りにするのは、自らが人々を代表する人間であると主張したいがためではない。自らが人々の「分身」であることを強調したいがためである。」（吉田、p.155）

29

まとめ

ポピュリズムにおけるリーダー

- 「民意」を「体現」「表現」するリーダー
- 人々の「化身」「分身」としてのリーダー



「原父」「偉大なる男」「カリスマ」

「リーダーシップの機能は、集団生活や集合行動を方向づけ、ある目標へと多数の人々を動かそうとするものである。」（山川、pp.94-95）

30

「リーダーシップ」なきリーダーとしてのポピュリスト
→「リーダー」もまた「その他多くの人々」の一人

- リーダー＝「地位」「役職」
- 「カリスマ的要素」は備えていても、人々を「帰依させる」能力を伴わない
- 体制の一機能ではあるが、「リーダーシップ」を伴わない

31

【参考文献】（引用順）

吉田徹『ポピュリズムを考える 民主主義への再入門』
（NHK出版協会、2011年）

山川雄巳『政策とリーダーシップ』（関西大学出版部、
1993年）

ジークムント・フロイト「集団心理学と自我分析」藤野
寛・訳『フロイト全集17』（岩波書店、2006年）

マックス・ウェーバー『権力と支配』濱嶋朗・訳（講談
社学術文庫、2012年）

ジークムント・フロイト「モーセという男と一神教」藤
野寛・訳『フロイト全集22』（岩波書店、2007年）

Aaron Wildavsky, *Moses as Political Leader*
(Shalem Press, 2005)